

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2024.6.20(木)  
No.289

## 子どもの最善の利益を守りたい 2024年度さいたま市教組発足

### 執行委員長あいさつ

この3月に息子が中学校を卒業しました。卒業式では「手紙」拝啓十五の君へ」が歌われ、体育館は感動に包まれました。

力強い低音とそれを包み込むような高音の美しさ、語るように振る指揮者の素晴らしさ...改めて聴く歌詞も心にしみました。卒業の最後の日まで一生懸命取り組める場を与えてくださった先生方に、感謝の思いでいっぱいです。

「感動を食う」  
幸せな仕事か  
若いころ「教師の仕事は『感動を食う』こと」だと教えていただいたことがあります。

これまで私は尊敬する先輩や同僚の方々に囲まれて仕事をしてき

ましたが、ここ数年学校から感動が奪われ、気力がなくなってきたと、熱意を辞していく方が後を絶ちません。

「ひとつしかないこの胸が 何度もばらばらに割れて 苦しい中で 今を生きている」

これは十五歳の迷いだけでなく、私たち教職員、初任者の方、また二十年、三十年と、この仕事を続けてきた方々にも共通する思いではないかと感じます。

がんばりがらめに手足を縛られるような生活、分かるまで教える時間もない学校は、誰にとっても苦しいものです。教材研究をするワクワク感、予想を超えた発

言に驚く授業、同僚と感動を共有する時間、子ども見え方が変わる瞬間など、教員の楽しさややりがい、年々削り取られていく気がします。

子どもの不登校が全国的に増え、「なんとなく気力がわかない」という理由が大きくなると、同じ根っこをもつ問題のように思えてなりません。

「自分とは何でどこへ向かうべきか 問い続けられれば 見えてくる」

労働組合は、多くの人にとってなじみの薄いものかも知れません。

「組合」と聞くだけで敬遠したくなったり、関わりたくないと感じたりする方もいるかと思えます。

しかし、私は、労働組合があるからこそ、教職

員が自由に「自分とは何でどこへ向かうべきか」といふことが出来ると思ふのです。

人を反発なく手の中に収める手法のひとつに、議論の土俵を小さくしてその中で活発に話し合わせる、という方法があるといふ事です。

例えば、私たちも、「ICT」を軸とした学びの「じ・し・や・く」で、授業を改善する「おはようメーター」を使って子どもの理解を深める「など」にすることがあります。

しかし、こうした議論が、活用を是とした「小さな土俵」になっていないかを疑い、本当に子どもの最善の利益につながる

っているのかを問う必要があるように感じます。

昨年7月、国連・ユネスコは「グローバルエデュケーションモニターングレポート2023」を発表しました。

この問題を研究する田中康寛氏(大阪教育文化センター事務局次長)によると、報告書では、過度なICT使用と子どもたちの成績との間に負の関連があること、子どもへのプライバシーや安全、幸福が侵害されていること、ICT活用のメリットは売り手側から発信されるものが多く客観性に欠けることなどが指摘されています。

特に、「生徒の最善の利益が他の考慮事項、特に商業的事項よりも体系的に優先されるべきであること」が提起され

ているそうです。

昨年度さいたま市教委は、「高いお金を払ったのだから活用されない」と困る」と「ICT」活用率の低い学校を訪問したそうですが、このような姿勢は、世界基準から見ても厳しく糾弾されるべきものです。

広い視野で対等に交渉

さいたま市教職員組合は、埼玉県や全国にも上部組織をもっています。さいたま市は政令指定都市であるため容易に独自の施策が行われがちですが、他市町村、他の政令市と比較すること、さいたま市の問題を明確につかみ交渉することが出来ます。

例えば、私たちから奪われた「子育て休暇」も埼玉県ではしっかり確保されていますし、むしろ我が子の学校の臨時休業・学級閉鎖、登下校の見守り当番など、取得要件が拡大されています。

全教(全日本教職員組合)では、専任の役員が各地の組合を支援し、文科省との交渉も行っています。(裏面に続く)



田中康寛「誰のための『教育DX』か?」『クレスコ』2024年1月274

委員長あいさつ(一面より続き)

労働組合の存在は、先人から受け継いだ財産です。

労働組合があること... 労働組合が... 管理職に対して... 教育委員会や国に... 対しても、対等で...

組合に加入すると... 金を切った... 毎月組合費... を支払う... 私... 自身の得た... 労働運動を...

声を集めれば力になる

今年度、初任者宿泊研修が廃止されました。一昨年度、2学期開始直前のコロナ第7波...

組合新聞で実態を広く伝え、市教委に訴えました。その結果、今年度の研修では、初任者の声を生かす形で代案が示されました。みんなが動く...

とで、大きく変えられることがあると確信を新たにしました。

私たちは教育研究所の英断に敬意を表するとともに、今後も教職員のいのちと健康を守るためにも奮闘していく所存です。

教職員の皆さま、ぜひ教職員組合にお力をかけてください。今こそ「感動を食う」学校を取り戻したいのです。組合新聞を読む、広げる、困りごとや疑問を発信する、カンパに協力する、市民運動に参加する、組合に加入する。様々な方法があります。もしも、仕事に展望が持てず、現場を離れる前に、どうか私たちと共に希望をもって踏み出してください。

皆さまの声をお寄せください!

皆さまの加入を心よりお待ちしております!



さいたま市教職員組合 Saitama City Teacher and Staff's Union

TEL 048-641-6763

FAX 048-648-3567

メール: saitama@kyouiku-net.org

ホームページもあります

教職員のかたでお急ぎの相談は、埼玉県教職員組合にお願いいたします

TEL 048-824-2511

植水小学校勤務

詫間 恵里子

さいたま市の教育をより良くするために、子どもの最善の利益を守るために、共に手をとりがんばりましょう。

正確に勤務時間を把握してください!

さいたま市教組は、これまで長年に渡り労働時間の正確な把握を市教委に求めてきました。市教委が導入したロックスター出退勤システムでは、一回の打刻に約5分、毎月およそ200分が正確に管理されていません。市教委は「教頭が勤務時間を打ち直すから」と責任を放棄しています。

市教組では有志6人が人事委員会に對して「措置要求」を行い、正確な勤務時間把握を求めています。昨年度は人事委員会担当者が職場を訪問し、ストップウォッチを片手に打刻の現状を確認しました。今後の取組を、また組合新聞でお知らせしていきます。

2024年度 執行委員

- 委員長 詫間恵里子(植水小)
副委員長 大澤 博(大原中)
書記長 川上 勤(新和小)
書記次長 清水 和宏(植竹中)
執行委員
菊地 肇(大門小)
島田 悠子(道祖土小)
福田 重夫(大宮東小)
星野 多賀子(三室小)
本多 佐知子(浦和別所小)

放置は許されない! L-Gate 出退勤システム

学習交流会のお知らせ
民間教育団体、市民主催など、様々な学習交流会が開かれています。全国的な視野で共に学びましょう!どなたでも参加できますよ。

第9回市民学習交流会

教育のデジタル化と学力

世界で問い直される「教育DX」

今、全国的に進められている「教育のデジタル化」によって、「とにかくICT機器を使うことが大切だ」という風潮が強まっています。でも、本当にそうなのでしょうか?

お話 大阪教育文化センター 元中学校教師(理科) 田中 康寛さん



講師紹介
今、デジタルのテーマで、田中先生と、具体的に現場でできる方はいないのでは?という声も聞かれます。...

報告 さいたま市「スクールダッシュボード」の問題点
これまでの検証と市民運動で明らかになったことを、私達の「会」から報告します。

6月30日(日)

10:00~12:00
会場&Zoom 開催
会場:浦和コミュニケーションセンター

会場 9:30 受付開始
Zoom 9:45 入室受付開始

参加申込

\*メール or 電話 or QR コードから
\*メールの場合
「お名前」
「会場かオンライン」
「住所(市)」を明記

090-2209-7673(吉田)
gakukyou77@gmail.com

主催 さいたま市の学校と教育を考える市民の会 後援 子どものネットリスク教育研究会

保健室からの発信 in埼玉
2024 夏の全国学習交流集会

すべての子どもと教職員の生命とひとみ輝く学校づくり

全教養護教員部では、子どもたちの成長と発達を願い、多くの人と手をつないで支援することを大切に、全国学習交流集会を開催しています。...

とき 2024年7月27日(土) 7月28日(日)

ところ <開会集会・記念講演・自主講座> さいたま共済会館
<分科会・閉会集会> 埼玉教育会館

参加費 現地参加3500円 (学生2000円)

おもひ日程

Table with 4 columns: Date, Time, Event Name, and Location. Includes details for 7/27 and 7/28.

主催: 全日本教職員組合(全教) 養護教員部
〒102-0084 東京都千代田区二番町1-2-1 全国教育文化会館3階全教受付
現地実行委員会: 埼玉県教職員組合・埼玉県高等学校教職員組合
現地実行委員長: 野間 通代